

「歩いてみた熊野古道」

平成 29 年 5 月 9 日～5 月 12 日
(1570) F/T

★ 熊野古道

紀伊半島の大部分を占める紀伊山地には、熊野三山、高野山、吉野・大峯といった名高い霊場がある。

その中の熊野三山「熊野本宮大社」「熊野速玉大社」「熊野那智大社」を参詣する道を歩いてみた。

平安時代から信仰の篤い法皇や修行僧が汗を流し、近世以降は多くの庶民も歩いた、今や世界的な文化遺産として知られるようになった道、いわゆる「熊野古道」。

参詣道（古道）には、いくつかのルートがあるが、そのなかで比較的昔の道が保存され、人気のある中辺路（なかへち）を歩いてみた。

★ コース

- 和歌山県紀伊田辺市滝尻・・・(峠越え)・・・
- 熊野本宮大社・・・(峠越え+川下り)・・・
- 熊野速玉大社・・・(海岸線+山中へ)・・・
- 熊野那智大社

★ 行程

■ 1 日目 (5 月 9 日 曇りのち小雨)

滝尻王子(たきじりおうじ)から近露(ちかつゆ)まで

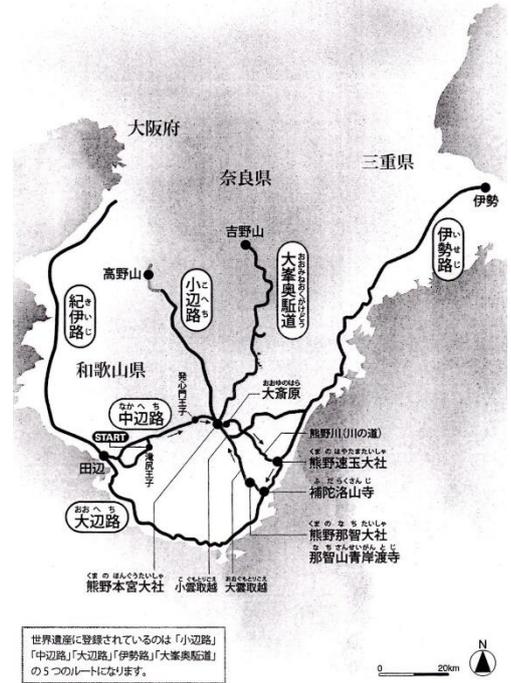
距離 13 km, 歩行時間 約 5 時間 30 分

滝尻王子からいきなり急な登り坂で、登り切ると尾根伝いの比較的緩やかな道になり高原(たかはら)熊野神社へと至る。高原からは再び登りとなり最高地点(688 m)の上和田茶屋跡へ。

茶屋跡から一気に下り、牛馬童子像(ぎゅうばどうじそう)を越えると古道の宿場として栄えた近露に到着。

※ 天気は良くないが「とうとう来たぞ」と気持ちのはやる。外国人が多く歩いていたが、負けるものかと必死(?)に歩いた。早くも石畳

熊野参詣道(熊野古道)略図



杉林と石畳



霧の里、高原集落

の道があり、楽しみにしていた古道歩きに気分は高揚する。民宿は外国人がほとんど。英語、中国語に挟まれ一人黙々と食べた。

■ 2日目 (5月10日 曇り)

近露から熊野本宮大社まで 距離 25 km

歩行時間 約8時間

近露から比較的平坦な舗道を歩く。小広(こひろ)王子から山中へ、標高500~600mのわらじ峠、岩神峠、三越峠を登り降りし、やがて清流に出る。

発心門(ほっしんもん)王子からはいよいよ熊野本宮大社の神域となる。なだらかな下り坂が続く。はやる心を抑えて杉木立に囲まれた境内に入ると檜皮葺きの荘厳な社殿が並んでいた。

※ 朝、地元の人たちと挨拶をしながら気分良く出発する。登り下りのある変化にとんだコースであった。長岡からきた兄弟、東京からきた夫婦と出会った。やっぱり日本人の方がいいなあと思った。

■ 3日目 (5月11日 晴れ)

熊野本宮大社から熊野速玉大社まで 距離 29 km

約8時間 (うち、川下り 16 km 1時間30分)

前半はゆるやか登り坂が続き、標高300mの松畑茶屋跡の先から、いったん中辺路と分かれる。万才峠(まんせいとうげ)へと伊勢路に進む。

分岐点から谷に下って急坂を登って万才峠へ。峠から下ってつづら折りの舗装路を縫うように進み、やがて熊野川に出て再度中辺路に戻る。

道の駅「瀬狭(とろきょう)街道熊野川」から、約1時間30分間、熊野川を舟で河口まで下る。河口近くに熊野速玉大社があった。

鮮やかな朱塗りがまぶしい社殿だ。

※ 今日歩き始から外国人のグループと追い越し、追い越されの道中。途中、身振り手振りで外国人と分かれ、別コースへ進む。荒れたままの道で迷う。午後からはのんびり舟下りを楽しむ。



山中の橋を渡る



音無川と緑のトンネル



発心門王子



大斎原の大鳥居



苔に覆われた石垣

■ 4日目 (5月12日 晴れ)

熊野速玉大社から熊野那智大社まで 距離 20 km 歩行時間 約8時間

新宮市街地を抜け、熊野灘の海岸沿いに歩く。高野坂の高台を越え国道へ。途中、国道を離れ小さな峠を二つ越える。那智駅近くの浜の宮王子からいよいよ那智山へ。

国道沿いの旧道や、山道を通して大門坂の登りにさしかかる杉の巨木が立ち並ぶ石畳を登り切ると最後の目的地熊野那智大社に到着した。隣接する青岸渡寺から三重の塔と那智大滝がよく見えた。

※ 暑かった。飲んだ。飲んだ。時間がかかってしまった。ようやく到着した那智大社には思わぬ綺麗な二人の「平安娘」が待っていてくれた。ああ良かった。

【感想】

- 中辺路のなかでも多くの人に歩かれている滝尻王子から熊野本宮大社までは道も歩きやすかった。しかし、歩く人が少ない伊勢路は一部分かりにくい道もあり、道も荒れていた。
- 三日目は山深い小雲取越(こくもとりごえ)・大雲取越(おおくもとりごえ)コースを歩きたかったが、山中にある宿が満員で川下りに変更した。淀みでは船頭が櫂で舟をこぎ、ガイドの篠笛を聞きながら、ゆったりとしたひと時を過ごした。
- 静かな熊野灘の海岸は波に洗われた平たい小石や砂に足をとられるようにして歩いた。
- 古道歩きをしていた人は圧倒的に外国人の方が多かった。
- 地元の人達と挨拶を交わし、時には道を尋ねたりした。宿の人の親切も忘れられない。
- 新緑の季節、緑のトンネルや咲き競う春の花、見たことのない山野草も楽しみの一つ。
- 突然目にした鹿やタヌキ、休憩所に休んでいた野良猫、沢ガニ、そしてジッと動かないマムシの出現にドッキリ！
- 千年の昔から多くの人が信仰を求め、山深い山中を苦労しながら歩いた参詣道。
- 苔むした石畳の道 山中にひっそり佇む石仏 かつて旅人が立寄ったであろう茶屋跡 一人、歩きながら先人の心に思いを馳せてみた。
- 山あり 川あり 海ありの心に残る旅であった。



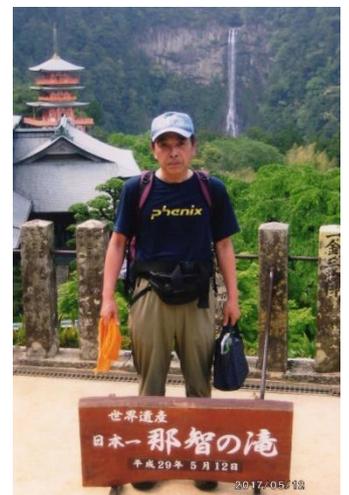
熊野川の舟下り



王子ヶ浜(新宮市)



待っていた？平安娘



三重の塔と那智の滝

(おわり)